

平成26年度「熊本県学力調査」結果（概要）

熊本県教育委員会

県教育委員会では、児童生徒の学力や学習の状況を適切に把握し、教師の指導方法の工夫改善を図るため、「県学力調査（ゆうチャレンジ）」を実施し、その結果を県教育委員会ホームページで報告するとともに、各小中学校へ「分析支援データ」と「課題克服プリント」を提供しました。本リーフレットでは、県全体の分析結果をはじめ、学力向上に成果が見られる学校の取組例、各学校にお願いしたい学力向上の取組などを紹介しています。

各学校におかれては、これらを活用して、自校の意識調査と学力調査の結果を県の調査結果と比較・分析するなどして、自校の成果と課題を明らかにし、その改善に向けて授業改善はもとより、補充指導等の充実、教育課程編成の工夫を図るなど、学校総体として学力向上の取組を検証・改善していただくようお願いします。

<調査の概要>

- 実施期間：平成26年12月1日（月）～12月12日（金）
- 調査対象：市町村立の小学校第3学年～第6学年及び中学校第1学年・第2学年の原則として全児童生徒
小学校304校（第3学年：10,215人，第4学年：10,503人，第5学年：10,368人，第6学年：10,913人）
中学校136校（第1学年：10,457人，第2学年：10,572人）
- 学力調査：小学校 国語，社会，算数，理科
中学校 国語，社会，数学，理科，英語
- 意識調査：意識調査A（児童生徒対象）※中学校第3学年：10,524人を含む
意識調査B（教師対象）※小学校：3,726人，中学校：2,282人

1 意識調査の結果

【意識調査A（児童生徒対象）】

- 小中学校とも、それぞれの教科において、「勉強がとて（まあまあ）好き」「よく（だいたい）理解できている」と回答した児童生徒が年々増加している。
- 小中学校とも、前学年の学習内容の復習や難しい問題への挑戦を望む児童生徒が年々増加している。
- 宿題がないときに家庭学習をしない児童生徒の割合は依然として2割程度[小17.9%，中22.6%]であり、特に中学校で増加している。また、1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合も中学校で25.0%と高い。
※ 学校総体として、自主的・計画的な家庭学習と読書活動の一層の充実を図る必要があります。

【意識調査B（教師対象）】

- 教科の研究授業や教材研究、熊本型授業を意識した授業、県学力調査「ゆうチャレンジ」の問題や結果の活用、評価規準（基準）を踏まえた適切な評価など、多くの項目で改善傾向にある。
- 新たな項目である「授業冒頭での目標提示」や、「終末での振り返り活動」については、概ね良好であったが、更なる徹底が望まれる。[目標提示：小98.1%，中96.8%，振り返り：小91.8%，中86.9%]
- 教科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を出している教師の割合は、中学校で年々低下している。
※ 全体的に改善傾向が見られる中で、家庭学習の課題の出し方等については改善が必要です。

2 学力調査の結果

- 各教科とも全体的に定着率は向上しており、知識・技能の観点を中心に改善傾向が見られる。
- 文章、図表やグラフ、観察・実験結果等の資料などから思考・判断し、目的や条件に応じて自分の考えを適切に表現する内容には、依然として課題がある。
- ほとんどの学年・教科で、知識に関する問題より活用に関する問題の定着率が低い。一部の学年・教科では基礎的な知識・技能に課題がみられる。
 - ・ 小学校：4年国語（漢字辞典の調べ方）、3年算数（巻き尺を用いた測定）など
 - ・ 中学校：2年社会（日本の山地・山脈の並び）、2年数学（基本的な作図）など
- 平成25年度調査で課題がみられた内容については、概ね改善傾向にあるが、一部では依然として定着率が低い内容もある。
 - ・ 小学校：5年国語（一文を二文に書き直す）、3年理科（影の観察結果の説明）など
 - ・ 中学校：2年国語（主語と述語の関係）、1年社会（世界各地の人々の生活）など
- ◎ 無答率は、概ね減少しており、特に中学校では改善傾向がみられる。

※ 自校の学力の課題を明確にしたうえで対策を施し、次の学力調査で改善状況を検証しましょう。

意識調査A(児童, 生徒対象)結果の推移【一部抜粋】 以下に示す数値の単位: %

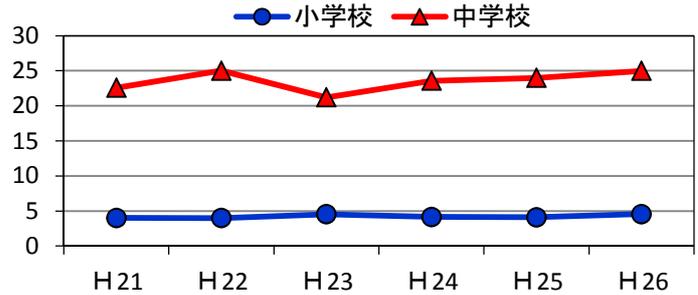
問10 あなたは、この1か月に本をおよそ何冊読みましたか。(漫画、雑誌はのぞきます。)

ア 0冊

※ グラフの小学校は小3～小6の平均、中学校は中1～中3の平均

平成23年度以降は中学校で増加傾向にあり、中学生の4人に1人は1か月に1冊も読んでいません。校内で一斉読書の時間を設定するなど、読書に親しむ機会を確保する必要があります。

- ・小学校3年： 3.8%
- ・小学校6年： 5.8%
- ・中学校2年： 21.5%

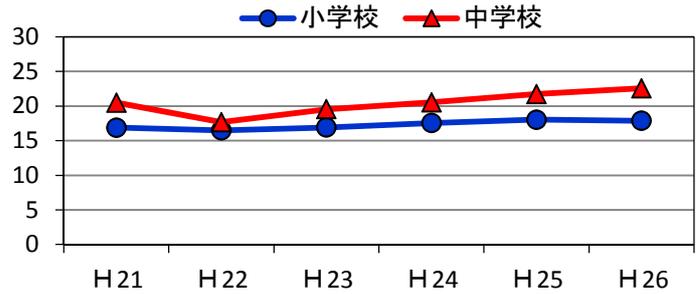


問15 あなたは、家で、学校の宿題のほかにどんな勉強をしていますか。(複数回答可)

エ 宿題がないときはしない

平成22年度以降は増加傾向にあり、小中学校ともに宿題がないと家で学習しない児童生徒が2割程度となっています。自分で計画を立てて予習・復習する習慣を付ける必要があります。

- ・小学校3年： 20.3%
- ・小学校6年： 30.0%
- ・中学校2年： 38.2%



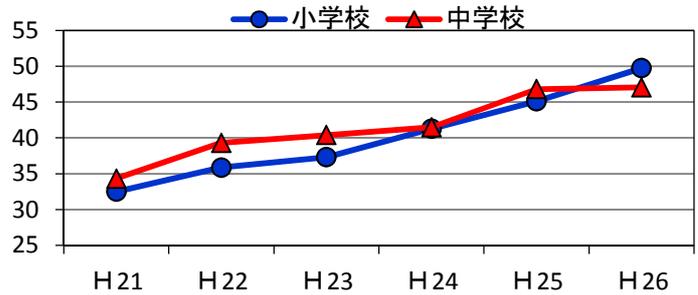
意識調査B(主幹教諭, 教諭, 講師対象)結果の推移【一部抜粋】 以下に示す数値の単位: %

問7 あなたは、熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」の結果を、どの程度、指導方法の工夫改善等に活用していますか。(平成25年度「熊本県学力調査」結果概要リーフレットの活用を含む)

ア 十分に活用している + イ 概ね活用している

平成21年度以降は増加傾向 (H26はH25比で小学校+4.6, 中学校+0.2) ですが、依然として小中学校ともに5割に満たない状況にあります。

各学校では、県学力調査結果を分析し、自校の課題を把握して指導改善につなげるPDCAサイクルを確立し、組織的に取り組む必要があります。

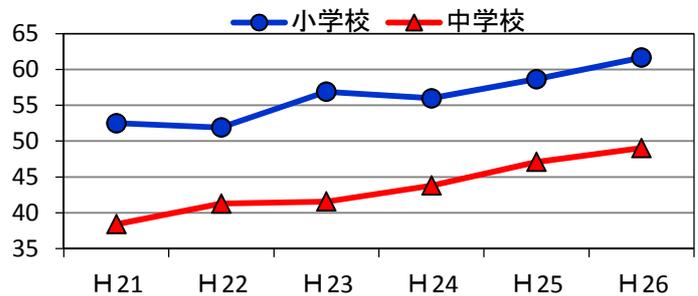


問9 あなたの授業では、児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて補充的な学習や発展的な学習を行うなど、個に応じた指導の充実が図られていますか。

ア 十分に図られている + イ 概ね図られている

平成22年度以降は増加傾向 (H26はH25比で小学校+3.1, 中学校+1.9) ですが、中学校で依然として5割に満たない状況にあります。

課題克服プリントや、ゆうチャレンジ過去問題、単元別評価問題等を活用して、個に応じた指導の充実を図る必要があります。

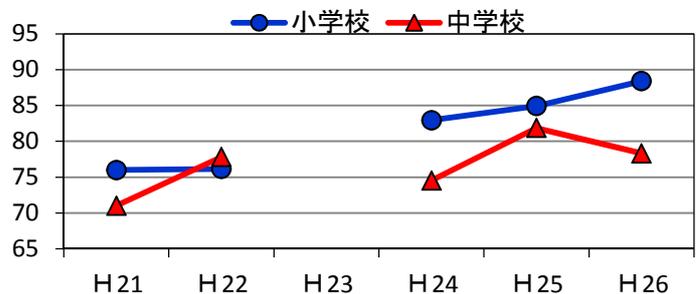


問12 あなたは、「全国学力・学習状況調査」の結果の分析・考察で明らかになった課題に対して、校内研修等で協議された方策の共通理解のもと、取組にあたっていますか。(※H23調査は東日本大震災のため未実施)

ア よくしている + イ どちらかと言えばしている

小学校では増加傾向ですが、中学校では減少傾向 (H26はH25比で小学校+3.5, 中学校-3.6) です。

4月の全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、課題改善の方策を校内で共通理解・実践し、その成果を県学力調査や次年度の全国学力調査等で検証することが必要です。



各教科の概要（小学校）

○：成果，●：課題，□：両側面

【国語】

1 全体的にみた成果・課題

- 中心となる語や文、段落相互の関係をとらえることや、目的に応じて文章の要旨をとらえることなど、前年度と比較して、全体的に「読む能力」が向上している。
- 主語・述語の関係や、接続語を使って一文を二文に書き直すこと、敬語を適切に使うことなど、言葉の特徴やきまりに関する内容の定着に課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、概ね定着の傾向にあるが、かぎ「」の使い方や、漢字辞典の調べ方、文字の組立て方(書写)など、言葉に関する基礎的な知識・技能の一部に課題がある。
- 活用に関する問題については、前年度と比較して、概ね改善の傾向にあるが、文章を読んで登場人物の言動から気持ちを想像したり、自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

【社会】

1 全体的にみた成果・課題

- 人口の変化と水の使用量との関係や、トマトの収穫量と価格との関係など、グラフから必要な情報を読み取る技能については概ね定着している。
- 本居宣長や近松門左衛門の功績など、歴史上の人物についての基本的事項の理解に課題がある。
- 江戸時代の文化が広がった背景など、歴史の背景について考え、表現することに課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、公共施設の働き、ごみの種類、交通機関の便利な点、弥生時代の人々の生活の様子など、基本的事項の理解に課題がある。
- 活用に関する問題については、販売者側の願い・工夫点や、道具の変化の様子など、社会的事象の意味や働きについて考え表現することは概ね定着傾向にある。

【算数】

1 全体的にみた成果・課題

- 「数と計算」領域において、基本的な計算技能は概ね定着しているが、乗法や除法の意味を理解すること、概数を用いた計算結果から見積もり方を考え、選択肢から選ぶことに課題がある。
- 「量と測定」領域において、面積を求める方法を示した図に合った式を考えること、「数量関係」領域において、物の数を工夫して数えるための図に合った適切な式を考えることなど、数量や図形に関わる意味や概念の理解に課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、概ね定着しているが、伴って変わる二つの数量の関係を表に表して考察すること、縮図をかくて実際の長さを求めることに課題がある。
- 活用に関する問題については、単位量当たりの大きさを用いて混み具合を説明することや、交換法則や結合法則を活用した計算の方法を説明することに課題がある。

【理科】

1 全体的にみた成果・課題

- 「物質・エネルギー」において、物の形と重さの関係を理解していること、「生命・地球」において、植物の発芽の条件を制御しながら実験することについては概ね定着している。
- 「生命・地球」において、日なたと日陰の地面の温度を比較して分かったことを表現することや、植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを調べることに課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、植物の成長には一定の順序があることや、リトマス紙を正しく取り扱うことなど、基本的な知識・技能は概ね定着傾向にある。
- 活用に関する問題については、地面にできる影のでき方を考えること、実験結果から発芽の条件を考えて表現することに課題がある。

各教科の概要（中学校）

○：成果，●：課題，□：両側面

【国語】

1 全体的にみた成果・課題

- 話合いの目的や話題を意識して自分の考えをまとめることや、論理的で分かりやすい話の構成を工夫することは概ね定着している。
- 辞書を利用する方法について理解することや比喩などの表現の技法、漢字を読むことなど、言葉の特徴やきまりに関する事項に課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、常用漢字を読むことや学年別漢字配当表の漢字を書くこと、主語と述語の関係に注意して文を適切に書き直すことに課題がある。
- 活用に関する問題については、文章に表れている筆者のものの見方や考え方をとらえ、自分の考えをまとめたり、広げたりすることに課題がある。

【社会】

1 全体的にみた成果・課題

- 東南アジア各国の統計資料から産業の変化に着目し、地域的特色を記述するなど、目的に応じて必要な情報を読み取る技能については概ね定着している。
- 江戸幕府が開国した理由を外国との関係から説明するなど、歴史的事象の関係性を考え表現することに課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、ユニバーサルデザインの考え方、世界の文明で使用された文字、日本の領域などの基本的事項の理解に課題がある。
- 活用に関する問題については、自然災害に対する防災対策などに関し、既習事項や生活経験と結び付けて考え、表現することなどに成果が見られる。

【数学】

1 全体的にみた成果・課題

- 「数と式」領域における正の数と負の数及び整式の四則計算、「図形」領域における線対称な図形をかくことなど、基本的な技能については概ね定着傾向にある。一方、分配法則を使った一次式の計算や単項式どうしの乗法や除法の計算などについては課題がある。
- 「図形」領域における空間の直線の位置関係や図形の移動、「関数」領域における比例や反比例の意味の理解に課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、関数の意味、円錐と円柱の体積の関係など、基本的な概念の意味の理解に課題がある。
- 活用に関する問題については、文字式で表された数量の関係について、数や言葉で適切に記述することに課題がある。

【理科】

1 全体的にみた成果・課題

- 生物的領域において、脊椎動物の仲間を分類することや、解剖の目的を理解して観察を行うことについては概ね定着傾向にある。
- 物理的領域において、圧力の大きさの求め方を理解していること、化学的領域において、化学変化の実験結果について考察することに課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、溶解度のグラフから再結晶する量を読み取ること、顕微鏡で観察する技能、堆積岩の名称についての理解に課題がある。
- 活用に関する問題については、凸レンズの働きについて実験結果を基に考察することなど、観察、実験などの結果を分析して解釈し、自らの考えを表現することに依然として課題がある。

【英語】

1 全体的にみた成果・課題

- 「聞くこと」では、まとまりのある英語を聞いて、主な事実等を正確に聞き取ることは定着傾向にある。
- 「読むこと」では、英文のあらすじや大切な部分などを正確に読み取ることに課題がある。
- 「書くこと」では、自分の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように、接続詞を活用して書くことや、文と文のつながりなどに注意して書くことに依然として課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、与えられた語を用いて正しい語順で書くことに、やや課題がある。
- 活用に関する問題については、自分の意見や考え等をまとめ、既習事項（語彙、文構造等）を活用して表現することに課題がある。

平成25年度調査において課題がみられた内容の改善状況【経年比較問題】

※[]内は学習指導要領の内容の記号, 定着率の右の()内は平成25年度に出題した類似問題との比較です。

		依然として課題があるもの	改善傾向がみられるもの
小 学 校	国語	●接続語を使って, 一文を二文に分けて書き直すこと。[3・4年伝イ(ク)] 5年[2](4) 定着率: 18.9% (+12.5) 無答率: 1.6%	○目的に応じて, 文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえること。[5・6年C(1)ウ] 6年[3](1) 定着率: 83.9% (+28.9) 無答率: 1.0%
	社会	●資料を読み取り, 組み立て工場の分布の特徴と理由を結び付けることができること。[5年(3)イ] 5年[4](5) 定着率: 21.4% (+8.2) 無答率: 4.7%	○江戸時代と明治時代初期の様子を表した資料をもとに時代の変化について考え, 表現できること。[6年(1)キ] 6年[6](3) 定着率: 68.1% (+16.9) 無答率: 3.5%
	算数	●平均の考えを使って目標とする数値を考えること。[5年B(3)ア] 6年[6](2) 定着率: 48.6% (+6.1) 無答率: 9.1%	○2つの数量の関係を図と関連付けて考えることができること。[5年A(3)ア] 5年[3](1) 定着率: 50.0% (+21.0) 無答率: 0.3%
	理科	●ものによってできる影の観察結果を, 地面にできる影の位置と長さの変化から選び, その理由を説明すること。[3年B(3)ア] 3年[4](1) 定着率: 35.6% (+13.6) 無答率: 2.5%	○条件に合わせて, 直列つなぎと並列つなぎの回路をつくること。[4年A(3)ア] 4年[2](5) 定着率: 79.5% (+45.2) 無答率: 2.3%
中 学 校	国語	●文の成分の順序や照応, 文の構成などについて考えること。[2年伝イ(ウ)] 2年[2](4) 定着率: 45.8% (+22.5) 無答率: 5.3%	○文章を必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。[1年Cイ] 1年[3](4) 定着率: 53.6% (+44.6) 無答率: 12.8%
	社会	●知識を活用して, 奈良時代が唐の影響を受けていることを説明できること。[1年歴史(2)] 1年[6](2) 定着率: 36.2% (+19.6) 無答率: 15.5%	○大航海時代に発見された航路を, 年代等を含めて理解していること。[2年歴史(4)] 2年[4](1) 定着率: 56.8% (+4.5) 無答率: 3.5%
	数学	●文字を用いた式で数量関係を表し, 説明することができること。[2年A(1)イ] 2年[7](3) 定着率: 57.7% (+2.9) 無答率: 21.8%	○方程式の解の意味を理解していること。[1年A(3)ア] 1年[6](1) 定着率: 53.4% (+29.9) 無答率: 7.0%
	理科	●溶解度のグラフから再結晶する量を読み取る技能を身に付けていること。[第1分野(2)イ(イ)] 1年[3](8) 定着率: 19.6% (+2.5) 無答率: 11.4%	○地層の重なりから時間的経過を表現すること。[第2分野(2)イ(ア)] 2年[4](5) 定着率: 59.0% (+32.0) 無答率: 4.8%
	英語	●物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。[ウ(ウ)] 1年[8](4)① 定着率: 29.2% (-15.8) 無答率: 24.1%	○読み手に正しく伝わるように, 文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。[エ(オ)] 2年[9] 定着率: 64.5% (+5.9) 無答率: 11.2%

山鹿市立
内田小学校



【学習の基盤づくり】

- 菊鹿中校区共通実践項目の評価と改善
- 授業の準備, 返事, 姿勢等の学習訓練
- 授業における辞書の活用
- 発表の場の工夫
- 毎時間の「まとめ」の充実
- 「家庭学習のすすめ」の活用

★ 山鹿市では、山鹿市教育創造「夢プロジェクトⅡ」に係る取組として、各中学校区単位の小中学校全体で共通目標、具体的内容を設定し、共通実践をしています。

山鹿市立
菊鹿中学校



【学習の基盤づくり】

- 全国と県の学力調査の速やかな分析を基にしたPDCAサイクルの確立
- 「学び合い」を核とした授業実践
- 宿題のチェックの確実な実施
- 職員をペアにして互いに授業参観
- 生徒作文の新聞への投稿

「学び合い」をキーワードとした授業づくり

内田小学校では、「学び合いをめざして」という授業づくりの4つの視点を意識した授業づくりに努め、主体的な学習態度の育成を図っています。

＜学び合いをめざして＞

- 1 場づくり…互いの考えを話す・聞く・深め合う場
- 2 つながる言葉…「付け加えます」「似ています」など
- 3 雰囲気づくり…気軽に教え合い, 助け合う雰囲気
- 4 成功体験…みんなで「分かった」「できた」という体験

「学び合い」により、学習意欲が高まり、自分の考えを積極的に伝えたり、交流したりしながら、主体的に考えを深め合う姿勢が向上してきています。

菊鹿中校区の主な保小中共同実践

※内田小・六郷小・城北小, 菊鹿中の取組

1 「学びの基盤」の徹底

3小1中で、菊鹿中学校区保小中連携カリキュラムを作成し、話す・聞く態度や、姿勢、返事、日記、家庭学習などを共通して指導し、学校間の差をなくすようにしている。また、互いの学校の様子を評価したり、情報交換したりして、指導の徹底を図っている。

2 3小合同の漢字・計算大会

毎学期、3小の5・6年で漢字・計算大会を実施している。実施後は3小全体の結果を分析し、苦手な問題を重点的に指導したり、類似問題に取り組みせたりして、中学校区全体で基礎学力の向上を図っている。

3 一斉公開授業の実施

毎月15日の「学校へ15(行こう)会」を活用し、3小1中で授業を公開している。また、菊鹿中学校区保小中連携協議会の公開授業を交代で実施し、互いに参観し合うことで、各学校の様子を理解し、学校間の連携を強化している。

地域人材の専門性を生かした学習支援

菊鹿中学校では、コミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりを推進しています。その中で、「知のコミュニティ」活動として、地域住民の協力の下、様々な学力向上の取組を実施しています。

- サマースクール(7・8月)…学生ボランティアによる学習支援
 - 自由研究のまとめ(9月)…元理科教員による支援
 - 英語暗唱の支援(10月)…地域住民による支援
 - 短歌づくりの支援(12月)…菊鹿短歌会による添削指導
 - 放課後学習会(通年)…学生ボランティアによる学習支援
- 地域人材の専門性を生かした授業や学習支援等を充実させることで、生徒たちの学ぶ意欲が向上してきています。



山江村立
山田小学校

ICTの効果的な活用

山田小学校では、学習の見通しをもつ(デジタル)、書きながら考えをまとめる(アナログ)、考えを視覚的に共有する(デジタル)など、活動のねらいに合わせてICTを効果的に活用し、確かな学力の定着を図っています。

<ICT活用のポイント>

教師	学習の流れを示すプレゼンや本時の資料等を電子黒板で提示し、児童が見通しをもって学習を進められるようにする。
児童	考えを練り上げる場面では、根拠となる資料をタブレットPCや電子黒板に提示して、児童が互いの考えを共有し、深められるようにする。

教師は目的に応じてデジタルとアナログの融合を図っています。子どもたちは、一人一台のタブレットPCを自在に活用し、調べ学習や発表などに意欲的に取り組んでいます。

★ 山田小学校は、平成23・24年度に文部科学省「国内のICT教育活用好事例収集・普及促進に関する調査研究事業」指定校、平成25年度から県教育委員会「ICTを活用した『未来の学校』創造プロジェクト事業」指定校として実践研究に取り組んでいます。



【学習の基盤づくり】

- 挙手、返事等の学習訓練の徹底
- 辞書を机の上に置き、辞書で確かめる習慣
- 学習の流れが見える板書の構造化
- 学習シート記入や班学習等の指導
- ミニ学級会による話合いの仕方の指導
- 学力調査結果の分析と課題改善プラン

「自学タイム」の継続的取組

本渡中学校では、学習習慣の確立を図るため、授業と家庭学習をリンクさせた「自学タイム」に全校で取り組んでいます。帰りの会の前の10分間、その日の家庭学習の計画を立て、5教科の復習を開始します。続きは家庭で学習します。



<「自学タイム」の主な効果>

- 家庭での学習がスムーズになる。
- 自学の内容が充実する。
- 基礎学力の向上につながる。
- 授業と家庭学習をリンクさせた学習習慣が確立できる。

★ 本渡中学校は、平成23・24年度に文部科学省「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」指定校、平成26年度から県教育委員会「心の教育」研究推進校として実践研究に取り組んでいます。



天草市立
本渡中学校



【学習の基盤づくり】

- 「本中授業スタイル」による授業実践
- 授業以外の取組の充実(朝自習等)
- 心に響く道徳の時間の充実
- 各教科と道徳教育との関連の明確化
- 一日の生活リズムの確立(あいさつ等)
- 生徒会活動の充実(ボランティア活動等)

学力向上に向けた検証改善サイクルの確立を目指して

各学校においては、国や県の学力調査の問題や調査結果等の活用による学力向上に向けた検証改善サイクルを確立するとともに、校内研修を通して学校総体とした授業改善の取組の充実を図っていただくようお願いします。

<学校における取組の例>

学校総体とした授業改善の取組、個に応じた学習支援の取組など

12月

★平成26年度熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」の実施（県教育委員会）

1月

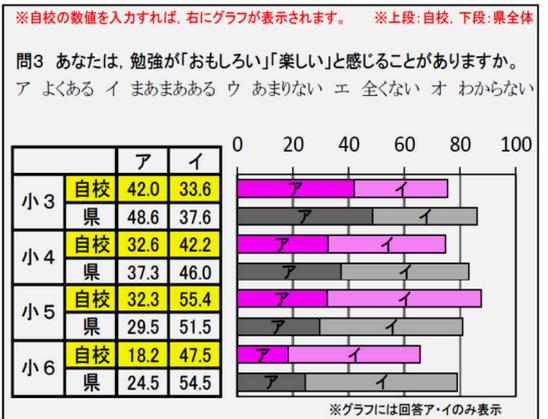
- **結果報告(ホームページ掲載)**…県全体の質問紙調査・学力調査の結果
- **分析支援データ**…自校の結果を県の調査結果と比較するグラフを表示

結果の検証

★県の調査結果との比較

- ・意識調査A・B
- ・学年別定着率
- ・小問別定着率
- ・誤答状況の分析
- ・学力と意識との関連 等

意識調査A(児童生徒)の分析支援データ→



2月

- **課題克服プリント**…本年度調査で明らかになった各教科の課題を年度内に改善

課題の改善

★補充指導等

- ・課題克服プリント(CD)
- ・過去の学力調査問題(CD)
- ・単元別評価問題(HP)

★各教科の授業改善

★家庭学習の充実 等

小学校第5学年算数の課題克服プリント→

平成26年度 熊本県学力調査(ゆうチャレンジ) 課題克服プリント
～小学校第5学年 算数「図形の性質」～

5年()組()番 名前()

1 五角形の5つの角の大きさの和の求め方を考えています。
ひとみさんは、「三角形の3つの角の大きさの和が180°である。」ことを使って、
 $180 \times 3 = 540$ という式を書きました。

ひとみさん 三角形の3つの角の大きさの和は180°

(1) 下の口に数を書き入れ、ひとみさんの考え方を説明しましょう。

① まず、五角形を対角線で つの三角形に分けます。

② 五角形の5つの角の大きさの和は、三角形 つ分の角の大きさの和と等しくなります。

③ 三角形の3つの角の大きさの和は °だから、
 $180 \times 3 = 540$ となります。 答え 540 °

3月

- **結果概要リーフレット**…調査結果の概要、課題の改善状況、成果のあった取組例 等

4月

★平成27年度全国学力・学習状況調査の実施（文部科学省）

学校総体とした授業改善の取組、個に応じた学習支援の取組など

※「平成26年度熊本県学力調査結果報告」は、熊本県教育委員会ホームページ(<http://kyouiku.higo.ed.jp/>)から、【義務教育→学力向上→熊本県学力調査→平成26年度熊本県学力調査】を参照してください。

<お問い合わせ先>

熊本県教育庁教育指導局義務教育課義務教育指導係

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18-1 TEL:096-333-2688